



国際シンポジウム「サステナブルで安心な社会の構築へ向けて」 の開催について（お知らせ）

開催概要：

北海道大学環境健康科学研究教育センターでは、北海道大学サステナビリティウィークのイベントのひとつとして、毎年国際シンポジウムを開催しています。

持続可能で人々が安心して生活できる社会をつくるために、「予防原則」という考え方がどのように役立つかを専門家と市民と一緒に学び考えるための企画です。自然科学、予防医学、公衆衛生学、社会科学など様々な観点から、1. 予防原則の概要、2. 水俣病からの教訓、3. 環境化学物質ばく露による子どもの健康、4. アジアの出生コーホート研究コンソーシアム、5. 予防ベースのリスクガバナンス、に関する5つの演題を提供します。

そのうえで、予防的方策とはそもそもどのような考え方を意味するのか、それは私たちの暮らしの安全に役立つのか、どのようにして環境を起因とする健康へのダメージを避けることに役立つのか、などの視点から持続可能な社会構築への学びの機会とします。

開催趣旨：

日時：平成 25 年 11 月 5 日（火）13：30 ～ 17：00

場所：北海道大学学術交流会館小講堂（札幌市北区北 8 西 5 丁目） 札幌駅北口より徒歩 7 分

主催：北海道大学環境健康科学研究教育センター

共催：北海道大学大学院医学研究科，教育学研究院，保健科学研究院，メディア・コミュニケーション研究院

後援：環境省，環境省北海道地方環境事務所，札幌市，札幌市教育委員会，札幌市保健所

参加対象・募集人数：市民・学生・自治体の担当者や専門家など 100 名

参加費：無料

言語：英語（日英同時通訳）

プログラム：「サステナブルで安心な社会の構築へ向けて」（日英同時通訳）

開始	終了	舞台上のプログラム	トピックス
13:30	13:35	ご挨拶：齋藤 健 博士 (北海道大学大学院保健科学研究院，環境健康科学研究教育センター長 兼務)	

13 : 35	14 : 00	長島美織 博士 (北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院, 環境健康科学研究教育センター兼務)	健康・環境・予防原則-導入として-
14 : 00	14 : 25	坂本峰至 博士 (環境省国立水俣病総合研究センター, 国際総合研究部/疫学研究部長)	メチル水銀のハイリスクグループとしての胎児:メチル水銀の胎盤通過の特異性
14 : 25	14 : 35	Break	
14 : 35	15 : 00	荒木敦子 博士 (北海道大学環境健康科学研究教育センター)	有機フッ素化合物と子どもの健康:環境と子どもの健康に関する出生コホート北海道スタディより
15 : 00	15 : 25	Prof. Pau chung CHEN (National Taiwan University College of Public Health)	BiCCA (Birth Cohort Consortium of Asia)
15 : 25	15 : 35	Break	
15 : 35	16 : 05	Prof. Ortwin RENN (University of Stuttgart, Environmental Sociology and Technology Assessment) (ビデオ会議)	Risk Governance: Risk-based, precaution-based and discourse based approaches
16 : 10	16 : 55	Panel discussion 1. 長島美織 博士 2. 坂本峰至 博士 3. 荒木敦子 博士 4. Prof. Pau chung CHEN 5. Prof. Ortwin RENN	
16 : 55		Closing Remarks	

申し込み期間・方法 :

氏名・住所・連絡先を明記のうえ, メール・電話・FAXにて11月1日(金)までにお申し込み下さい。
E-mail : info@cehs.hokudai.ac.jp TEL : 011-706-4746 FAX : 011-706-4725

お問い合わせ先

所属・職・氏名 : 北海道大学環境健康科学研究教育センター 荒木・高橋
TEL : 011-706-4746 FAX : 011-706-4725 E-mail : info@cehs.hokudai.ac.jp
URL : <http://www.cehs.hokudai.ac.jp/>



サステナブルで 安心な社会の 構築へ向けて

予防原則という考え方

シンポジウム主旨

持続可能で人々が安心して生活できる社会をつくるために、「予防原則」という考え方がどのように役立つかを専門家と市民と一緒に学び考えるための企画です。自然科学、予防医学、公衆衛生学、社会科学など様々な観点から、1. 予防原則の概要、2. 水俣病からの教訓、2. 環境化学物質ばく露による子どもの健康、4. アジアの出生 cohorts 研究コンソーシアム、5. 予防ベースのリスクガバナンス、に関する5つの演題を提供します。その上で、予防的方策とはそもそもどのような考え方を意味するのか、それは私たちの暮らしの安全に役立つのか、どのようにして環境を起因とする健康へのダメージを避けることに役立つのか、などの視点から持続可能な社会構築への学びの機会とします。

2013年
11/5 火 13:30-17:00 (開場 13:00)
北海道大学 学術交流会館 小講堂

講演およびパネルディスカッション(日英同時通訳)

司会：大林由英 北海道大学大学院 医学研究科
環境健康科学研究教育センター兼務
岸 玲子 北海道大学
環境健康科学研究教育センター

長島 美織
北海道大学大学院 メディア・コミュニケーション研究院
環境健康科学研究教育センター兼務

坂本 峰至
環境省 国立水俣病総合研究センター
国際総合研究部/疫学研究部長

荒木 敦子
北海道大学 環境健康科学研究教育センター

Prof. Pau chung CHEN
National Taiwan University College of Public Health

Prof. Ortwin RENN <ビデオ会議>
University of Stuttgart, Environmental Sociology
and Technology Assessment



申し込み・問い合わせ

北海道大学 環境健康科学研究教育センター
TEL011-706-4746 FAX011-706-4725
E-mail info@cehs.hokudai.ac.jp
URL <http://www.sustain.hokudai.ac.jp/sw/jp/>
担当：荒木・高橋

- 主催／北海道大学環境健康科学研究教育センター
- 共催／医学研究科、教育学研究院、保健科学研究院、メディア・コミュニケーション研究院
- 後援／環境省北海道地方環境事務所、札幌市、札幌市教育委員会、札幌市保健所